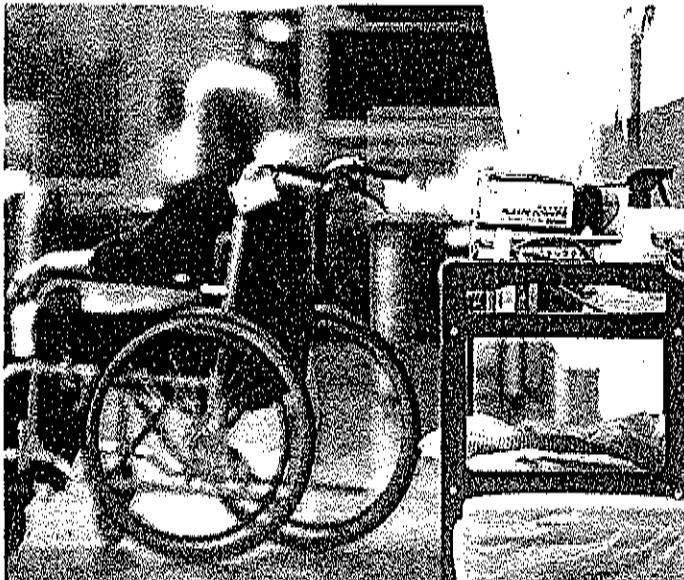


7/28 朝日



介護老人保健施設の廊下。個室の入り口に防護服、ゴム手袋、消毒液などを置く棚を用意している=22日、大阪府（画像の一部を加工しています）

高齢者施設 クラスター急増 毎週100件台 職員も感染次々

新型コロナウイルスの「第7波」で、高齢者施設などでのクラスター（感染者集団）が急増している。現場は感染防止対策に追われるが、人手不足が起きたつあって逼迫状態だ。施設への医師派遣といった国や自治体の支援態勢も十分機能するかは見通せない。

▼3面||悩む医師確保 厚生労働省によると、高齢者施設の1週間あたりのクラスター発生件数は6月初旬以降の2桁台が、7月初旬以降は100件台に。

17日は121件だった。特に大阪府内では7月18日24日の1週間に120施設でクラスターが発生し、125人の感染が確認された。6月20～26日の13施設166人に比べ、感染確認は7・5倍。医療機関も急増している。ただ、第7波で7月20日までに高齢者施設でのクラスターによつて施設内で死亡した人は確認されていない。

大阪で「医療崩壊」を招いた昨春の「第4波」でクラスターが発生し、死者も出た府内の介護老人保健施設。今夏、看護師や介護福祉士らがビニール製の防護服を着て汗だくになりながら、利用者の入浴を介助する。暑くとも感染対策上、袖はまぐれない。1人の介助が終わると、防護服を着替え、作業を繰り返す。

第7波では職員約30人のうち人が陽性者か濃厚接触者は子どもの学校や保育園からとみられる。介助する人手も不足し始めた。今のところクラスターには至っていないが、施設の事務長は「感染対策を緩められない苦しさもある。精神的な負担が増えている」と嘆く。これまでの波のクラスターでは、医療が介入できないケースも目立った。府は「第6波」のクラスター多発を受け、「協力医療機関」でコロナの初期治療ができる態勢の確保を施設に要請。府内約3600の施設

設の協力医療機関のうち、コロナ治療に対応できるのは4月1日時点の3割程度から7割程度まで増えた。ただ、実際にクラスターが起きた場合、医療機関がどこまで協力するか不透明だ。事務長は発生時を振り返り、協力医療機関から「コロナを持ち込まれるかもしれない」と断られたと明かす。脳梗塞やんかん発作などでも搬送先が見つからず、救急車が施設前で5時間探すこともあった。利用者が重症であつても病院に入れず、施設内にどどまるしかないー。こうしたケースを踏まえ、厚労省は自治体と連携し、施設への医療チームの派遣などの対策を提示した。だが第7波の急拡大のなか、対応しきれない懸念が生じてい